

1 研究主題

生き生きと活動し、考えを伝え・深めていく児童の育成
～振り返りと伝え合う活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

生活科の教科目標は「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。」である。

生活科においては、児童が体全体で身近な環境に直接働きかける創造的な活動が最も重視される。直接働きかけることは、児童が一方的に身近な人々、社会及び自然に働きかけるだけでなく、対象から児童に働き返してくるという双方向の活動になる。そのかかわりあいの中で、児童が個々の思いや願いをもち、生き生きと活動する姿がのぞまれる。また、活動や体験をその場限りで終わらせるのではなく、体験したことを伝え合い、交流する中で、気付きの質が高まったり、新たな考えを創造したりすることができる。児童が主体となり、自ら課題を見付け、考え、解決していく資質や能力を培っていくことを目標に本主題を設定した。

新学習指導要領は、平成32年度から実施される。平成28年12月の中央教育審議会の答申では、生活科の目標が次のようになっている。

＝ 目 標 ＝

具体的な活動や体験を通して、「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のように育成することを目指す。

- ①活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活の場に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- ②身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え表現する力を育成する。
- ③身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を育てる。

目標のポイント

第一に、「具体的な活動や体験」は生活科誕生以来、変わらない。

第二に、「見方・考え方」を生かすことが示された。

見方＝対象を捉える視点、考え方＝教科特有の思考の方法

第三に、「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力」の育成

自立への基礎が究極の目標から、さらに生活を豊かに創造する力を究極の目標とした。

三つの柱

全ての教科に共通して「三つの柱」が教科目標として定められている。

- ①「知識・技能の基礎」
- ②「思考力・判断力・表現力等の基礎」
- ③「学びに向かう力・人間性等」

このように次期学習指導要領でも、意欲的に学習する児童の育成、考え表現する力の育成が謳われている。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は

「心身ともにたくましい、人間味あふれる児童の育成」

～元気いっぱい 笑顔いっぱい 歌声いっぱい～ である。

目指す児童像は

- 1 自ら進んで学ぶ子ども
- 2 明るく思いやりのある子ども
- 3 心と体をきたえるたくましい子ども

本校では学校の教育活動全体を通して「生きる力」を育むことを目指している。

「知」「徳」「体」のバランスのとれた児童を育成していくことこそが、目まぐるしく変化する社会に対応していく力を身に付けるものと考えた。その具現化のためには何よりも、児童一人一人が明確に目標をもち、その達成に向けて生き生きと取り組むこと、その頑張りを認め合い、自信をもち、次の学びへつなげていくことが重要と考えた。

生活科の学習において、目指す児童像の「自ら進んで学ぶ子ども」とは、子どもが生き生きと熱中して活動し、その中で芽生えた気づきを他の人と伝え合うことで更に考えを深めていく姿であると考えた。

(3) 地域や児童の実態から

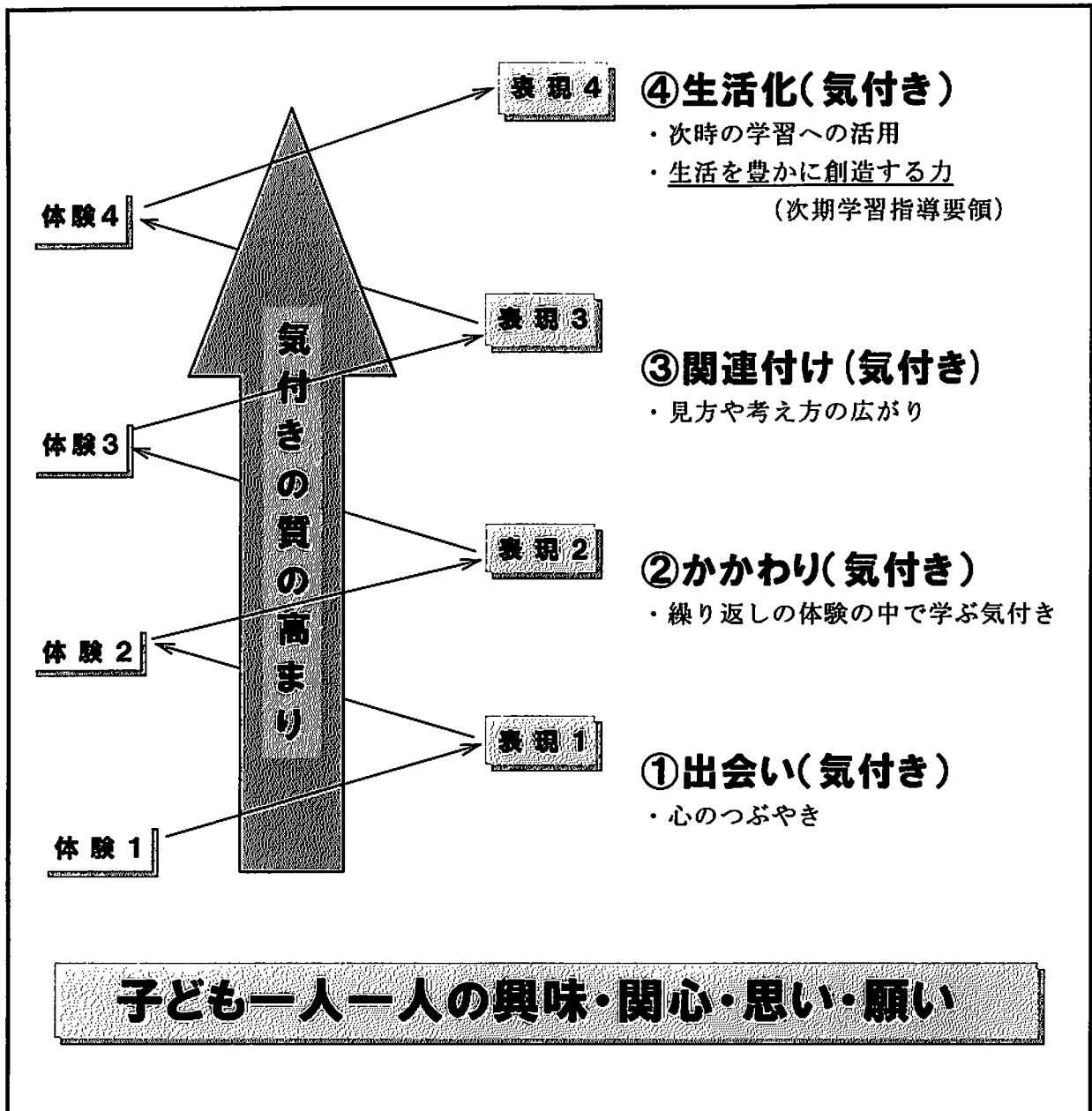
本校は明治6年開校で、創立144年を迎える四街道市内でも最も古い歴史をもつ学校で、学区には何世代にも渡り本校の卒業生という家庭もある。

現在は、全校児童が150名（各学年単学級6＋特別支援学級2）の小規模校であり、40～50年前より開発された住宅地から通う児童が全体の3／4を占める。保護者は学校に対して協力的で、親しみをもっている。

児童は明朗で素直な気持ちを持ち、種々の活動に意欲的に取り組むことができる。学校全体が、家庭的で温かい雰囲気である。反面、クラス替えがなく、人間関係が固定化したり、向上心や競争意識に欠けたりする面が見られる。周囲の人とのコミュニケーションの機会が限られており、仲間と共に考え、関わり合いながら伸びていこうとするまでには至っておらず、自分の考えを伝え合うことで、お互いを高め合うことが課題となっている。

以上、学習指導要領・学校教育目標・地域や児童の実態・次期学習指導要領の趣旨も踏まえ、考えを伝え合い深めていく児童の育成を目指して研究主題を設定した。

3 【気づきの質の高まり構造図】（仮説の基になる考え）



4 仮説について

仮説 1

一人一人の思いや願いを大切にし，活動の場を工夫すれば，関心・意欲が高まり，生き生きと活動するだろう。

<手立て>

- (1) 児童の思いや願いを知る。(実態調査や振り返り)
- (2) 思いや願いを生かした指導計画を立てる。
- (3) 繰り返し体験させる。
- (4) 他教科，3年社会科や総合的な学習の時間への橋渡しをする。

仮説 2

振り返りや伝え合う場を工夫すれば，気づきの質が高まり，自らの考えを深めていくことができるだろう。

<手立て>

- (1) 振り返りのポイント
 - ①自分自身：できなかったことができるようになった。
知らなかったことを知れた。
 - ②友だち：友だちのよいところに気付いた。
 - ③はじめと終わりを比較できる，成長がわかる振り返りを行う。
- (2) 伝え合う場の工夫
 - ①学級内，異学年
 - ②保護者，地域の人たち

5 実践例

1 単元名 わたしの町 はっけん（2 学年）

2 単元について

（1）単元観

本単元は、学習指導要領の内容

- （3）「自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」
- （4）「公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。」
- （8）「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」

を受けて設定したものである。

児童は、家庭と学校を核にして地域の施設や人々に見守られ支えられている。しかし、そのことを意識できていない児童もいる。そこで本単元では、繰り返し通学路を歩いたり、進んで地域の自然や人と関わったりすることで、どの子も自分たちの地域の人や場所のすばらしさに気づき、親しみや愛着を深められるようにするものである。

この単元は2 学年2 学期の単元であり、3 学年の総合的な学習の時間の地域学習へのつながりを考えて指導していきたいと考える。地域の人々の暮らし、地域の自然や伝統的なものなどへ目を向けるきっかけとなるように、地域の人々の協力を得ながら地域教材の活用を行ってきたい。

また、学校を中心とする自分たちの周りの地域の様子を表す方法として簡単な絵地図を作ることも行い、3 学年の社会科の学習へとつなげていきたい。単元の終わりには、学習のまとめとして地域の方々や保護者を招いて発表会を行い、地域の人々と双方向に情報や思いなどを交流するようにする。自分たちの生活が、地域のたくさんの人々や場所に支えられつながっていることに気付かせ、地域への愛着を深めさせていきたい。

（2）児童の実態

（男子14 名、女子16 名 平成28 年9 月5 日実施）

質問	回答
①生活科の学習は好きですか。	好き 25 名
なぜですか。	どちらかと言えば好き 5 名
	（理由）町探検や虫探しが楽しい 17 名
	植物を育てるのが楽しい 6 名
	いろいろなことが分かる 3 名
	外に出かけられる 3 名
	生活が好きになる 1 名

	どちらかといえばきらい 0名 きらい 0名
②家の周りの地区で、友達に自慢したい場所や人、ものなどがありますか。できたら地図をかいてください。	・公園 6名 ・自分の家やおばあちゃんの家 5名 ・神社 2名 ・施設や商店(お寺, 温水プール, そば屋, 三河屋, 公民館, 消防署, コンビニ, 商店街, 神社, うぶすな様) ・自然(田んぼ, カブトムシのいる森など) ・人(お花をくれる人, 野菜をくれる人, 犬の飼い主, パンダの絵を集めている人)
③町探検で、行ってみたいところはどこですか。	・大隆寺 5名・総合公園 4名・コンビニ 4名 ・公園 3名・友達の家 3名・神社 3名 ・公民館 2名・旭中 2名 ・その他 4名(おばさんの家, 三河屋, そば屋, 森) ・わからない 1名
④また、そこで何を見たい(したい)ですか。	・どんなところか調べる 4名 ・遊びたい 4名 ・建物の中を見たい 2名 ・自然を調べたい 2名 ・その他 4名 (絵を描きたい, お祭りを見たい, お参りをする, 階段が何段あるか)
⑤町探検で調べたことや分かったことをどうやってまとめたいですか。	・絵, ポスター, 紙芝居 各 1名 ・詳しくまとめる, 正確にまとめる, 順番に気を付ける, たくさん書く, 簡単にまとめる 各 1名 ・分からない 16名
⑥発表するとしたら、誰に聞いてほしいですか。	・家の人 21名 ・友達 4名 ・お寺のお坊さん 2名 ・その他(旭中の生徒, 先生) 2名 ・分からない 1名

本学級の児童は、全体的にどの教科でも意欲的に学習に取り組む児童が多く、生活科の学習についても全員が好きと答えている。自然と触れ合い体験的な学習ができることが魅力になっているようである。

1学期には、「春のまちではっけん」の単元で通学路のおすすめの場所やものを紹介し合い、

学級全体で学区探検を行った。自分の住んでいる地区だけでなく、友達の住んでいる地区にもいろいろなお店や施設、公園などがたくさんあることが分かり、「また探検に行きたい。」と多くの児童が話していた。

実態調査②③から、本校の学区の特色である古いお寺や神社などは、気にはなっているものの詳しくは知らず、自慢として挙げられていなかった。また、住宅地の中に残されている自然にもあまり目が向けられていない。これまで行ったことのある公園を自慢としている児童が多いことが分かった。そこで、地区の人々が大切に残しているお寺や神社、自然などを探検場所の一つとしたいと考える。

児童は今回の町探検で、初めて調べたことをまとめて発表するため、具体的なイメージをもてていないことが分かった。どうやってまとめるか「分からない」と答えている児童が半数以上いる。まとめ方や発表の仕方については、誰にどのように伝えるかという目的意識をもたせて、丁寧に指導する必要がある。

（３）指導観

２年生になり児童の行動範囲は広がり、いろいろな所に遊びに出かけることが増えているものの、自分の家の周りや通学路、よく遊ぶ公園や友達の家の周りなどの場所が線でつながらず点で存在している。住んでいる地区のことでも知らないことが多いようである。

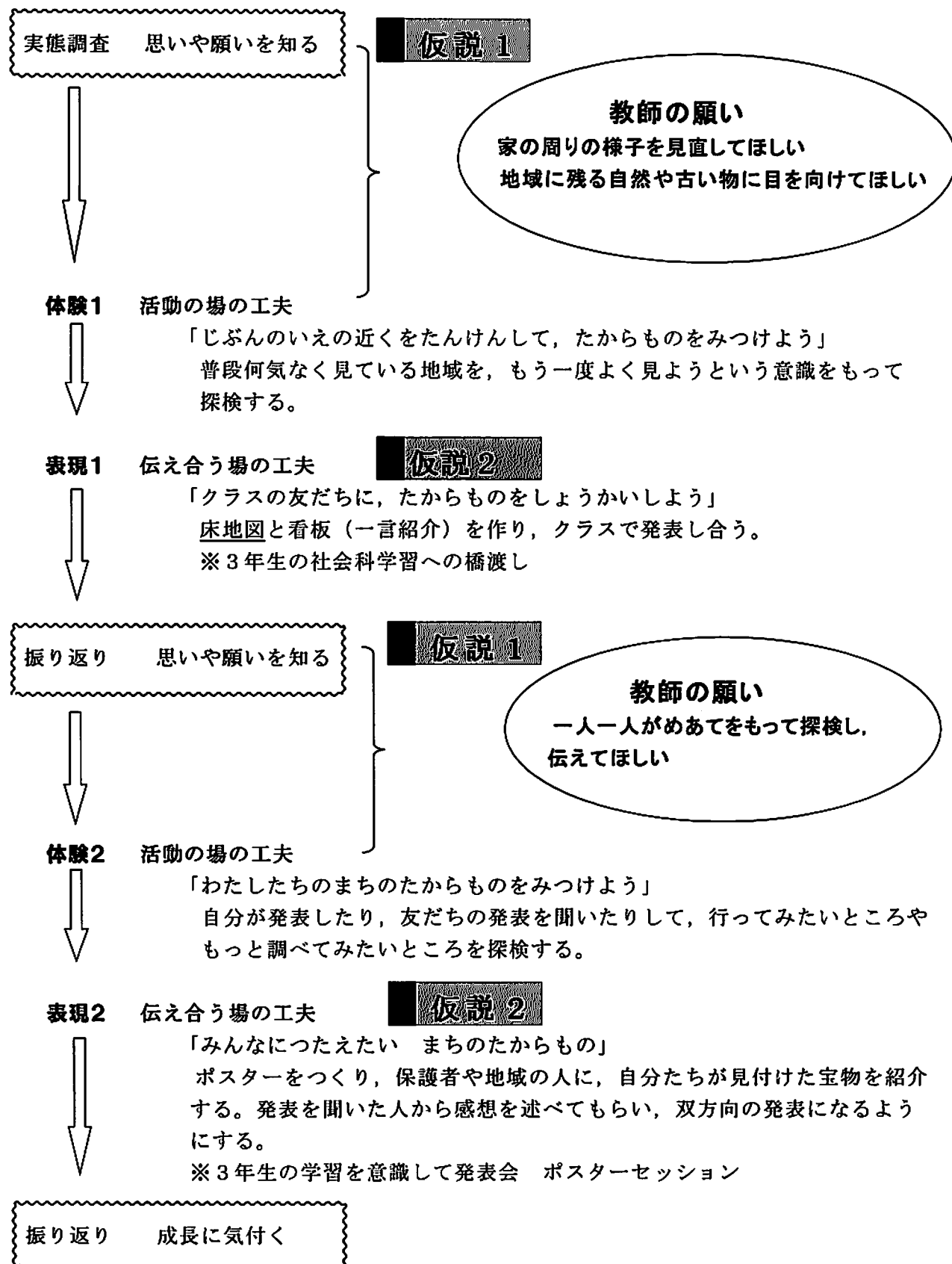
そこで、「町にははっけんがいっぱい」の小単元の指導にあたっては、まず自分の家の周りや通学路にしっかりと目を向けるようにさせたい。地区ごとのグループで１回目の町探検を行うことで、「確かめよう。」「もっと探そう。」という目的をもたせるようにしたい。各地区には、児童が『たからもの』と気付いていない人やもの、場所などもあるので、地域の人達へのインタビューを通して、気が付きが深められるようにしていきたい。１回目の町探検の後に学級内で『ミニ発表会』を行い、学校を中心とした各地区の様子を紹介し合う活動を行う。このような活動を通して、自分の住んでいる地区への愛着を深めさせていきたい。

次に「みんなのはっけんをあつめよう」で、２回目の町探検に向けて学習を進める。「自分の住んでいる地区の〇〇を友達に教えたい。」「友達が紹介してくれた〇〇を確かめたい。」など、一人一人の児童の思いを基にグループ編成をして町探検を行う。次の小単元で、地域の人や保護者に地域の『たからもの』を紹介するという目的も意識して探検を行えるようにしたい。

「まちのひとにつたえよう」では、地域の方々や保護者を招いて自分達が見つけた『たからもの』を発表する。ポスターセッション形式で、聞いている人にも意見や感想を聞く場を設け、双方向の発表になるようにしたい。

<仮説との関わり>

今回の単元は探検を2回、発表を2回行うこととした。体験のめあてをもたせ、伝える相手や表現方法を広げていくことで、考えを深めていきたいと考えた。



3 単元目標

- (1) 自分たちが住む町を探検し、様々な場所やもの、人に出会いながら、町への親しみと愛着を深めることができる。(関心・意欲・態度)
- (2) いろいろな感覚を働かせたり、道具を利用したりして町のことを調べることができる。(思考・表現)
- (3) 自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを表現し、友達や地域の人に知らせることができる。(気付き)

4 指導計画（30時間扱い）

小単元「町にははっけんがいっぱい」 12時間

時配	主な学習活動	評価規準（観点）
1	・春の町探検を思い出し、自分が好きな場所や人を書く。	・地域の様々な人やもの、場所に関心をもって紹介しようとしている。 (関心・意欲・態度)
2	・家が近所の友達とおすすめを紹介し合う。	・紹介カードに書き表す活動を通して、町の宝物の人や場所について考えている。 (思考・表現)
2	・町を調べに出かける計画を立てる。	・友達と相談しながら、探検したい場所や人、ものを決め、探検コースを考えている。 (思考・表現)
2	・グループごとに町探検をする。	・見学やインタビューを通して、町の宝物を見つけようとしている。 (関心・意欲・態度)
4	・町探検のまとめをする。 自分達の地区の地図を作る。	・グループの友達と話し合いながら探検したことを床地図に表そうとしている。 (思考・表現)
1 (本時)	・見つけたことや出会った人を他のグループの友達に発表する。	・床地図を使い、見つけた宝物を発表している。 (気付き)

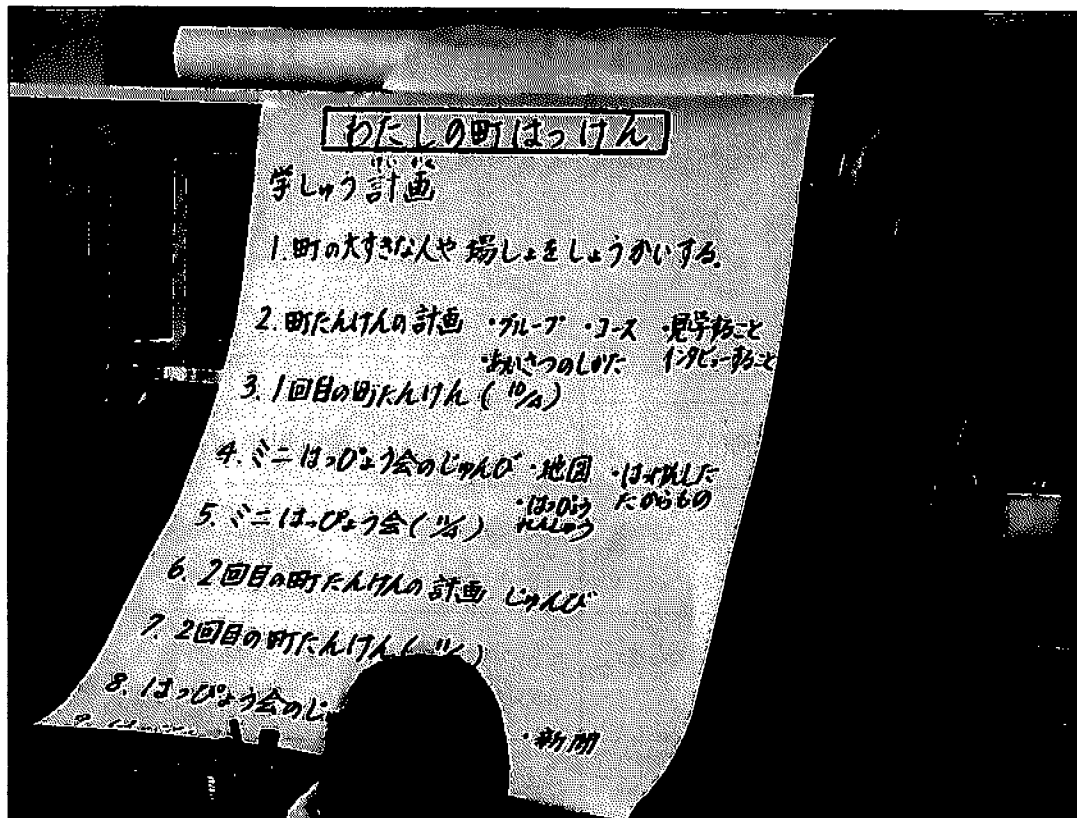
小単元「みんなのはっけんをあつめよう」 13時間

- ・コースや調べることや調べ方などの計画を立てる。2
- ・グループごとに町探検をする。4
- ・発見した町のたからものを発表する準備をする。5
- ・発表の練習を行う。2

小単元「町の人につたえたい」 5時間

- ・地域の人や保護者を呼んで、発表会を行う。3
- ・学習の振り返りをする。2

教室に掲示した学習計画



5 本時の指導（12／30）

（1）目標

- ・自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを表現し、友達に知らせようとしている。
(関心・意欲・態度)
- ・表現方法を工夫して、自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを伝えている。
(思考・表現)

（2）仮説との関わり

本時は、各地区ごとに行った1回目の町探検で見つけた『たからもの』を学級内で伝える時間である。学校を中心とした床地図を作り、学校との位置関係をつかませ、3年生の社会科の学習へつなげていくようにした。また、「いいな。」「すごいな。」と思うことをまとめさせ、床地図に看板（一言紹介文）として付けて、分かりやすく友達に伝えられるようにした。自分の家の周りのすてきな場所や人を、友達に発表する機会を設けることで、よりはっきりと『たからもの』が意識できると考えた。

（3）展開（12／30）

時配	学習内容と活動	指導・支援 ○評価	資料
5	1 本時の学習内容を知り、めあてを確認する。 ・町たんけんで調べたことを友達に伝える	・学習計画を見ながら、まだ途中の発表であることを確認する。	学習計画

るんだね。

- ・発表を聞いて友達に「行ってみたいな。」と思ってもらえるといいことを確認する。

町たんけんで見つけた『たからもの』をはっぴょうしよう。

3 5 2 グループごとに発表する。

・旭ヶ丘①（5名）

- ・旭ヶ丘しょうてんがいをたんけんしました。
- ・交番もありました。
- ・商店街の〇〇さんにインタビューしました。

・旭ヶ丘②（6名）

- ・三河屋は安いです。
- ・中山そばはおいしいです。
- ・大隆寺の人にお話を聞きました。とても古いお寺です。

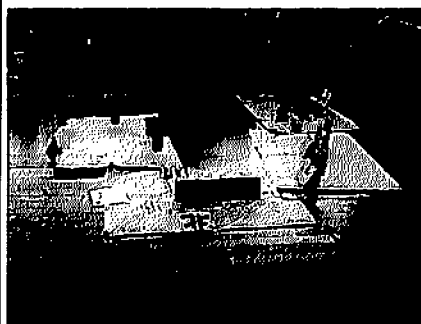
・上野、和田（4名）

- ・坂を下りると田んぼがあります。
- ・坂を上ると旭中があります。
- ・神社があります。
- ・旭中の先生にインタビューしました。
- ・そうごう公園は広くてたくさんあそべます。

・みそら①（4名）

- ・ダイヤモンド公園は、セミがたくさん羽化します。
- ・青柳さんに「ほたるの里」に連れて行ってもらいました。
- ・高橋さんの家で、キンセンカの種まきをしました。

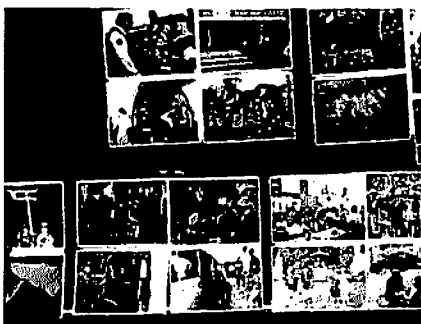
- ・教室の中心に「旭小学校」と周辺の道路を示した床地図を置き、これから各地区の床地図が置かれていくことを意識づける。



- ・発表は、次の手順で行うことを確認する。

- ①探検コースを言う。
- ②一人ずつ探検で一番いいなと思ったことを発表する。

- ・一番「いいな。」と思ったことは予め資料に書いておき、発表後に床地図に置けるようにしておく。
- ・場所や人の写真を用意しておき、床地図に貼るようにする。



- ・各グループ5分くらいで発表できるように、事前準備をしておく。

床地図

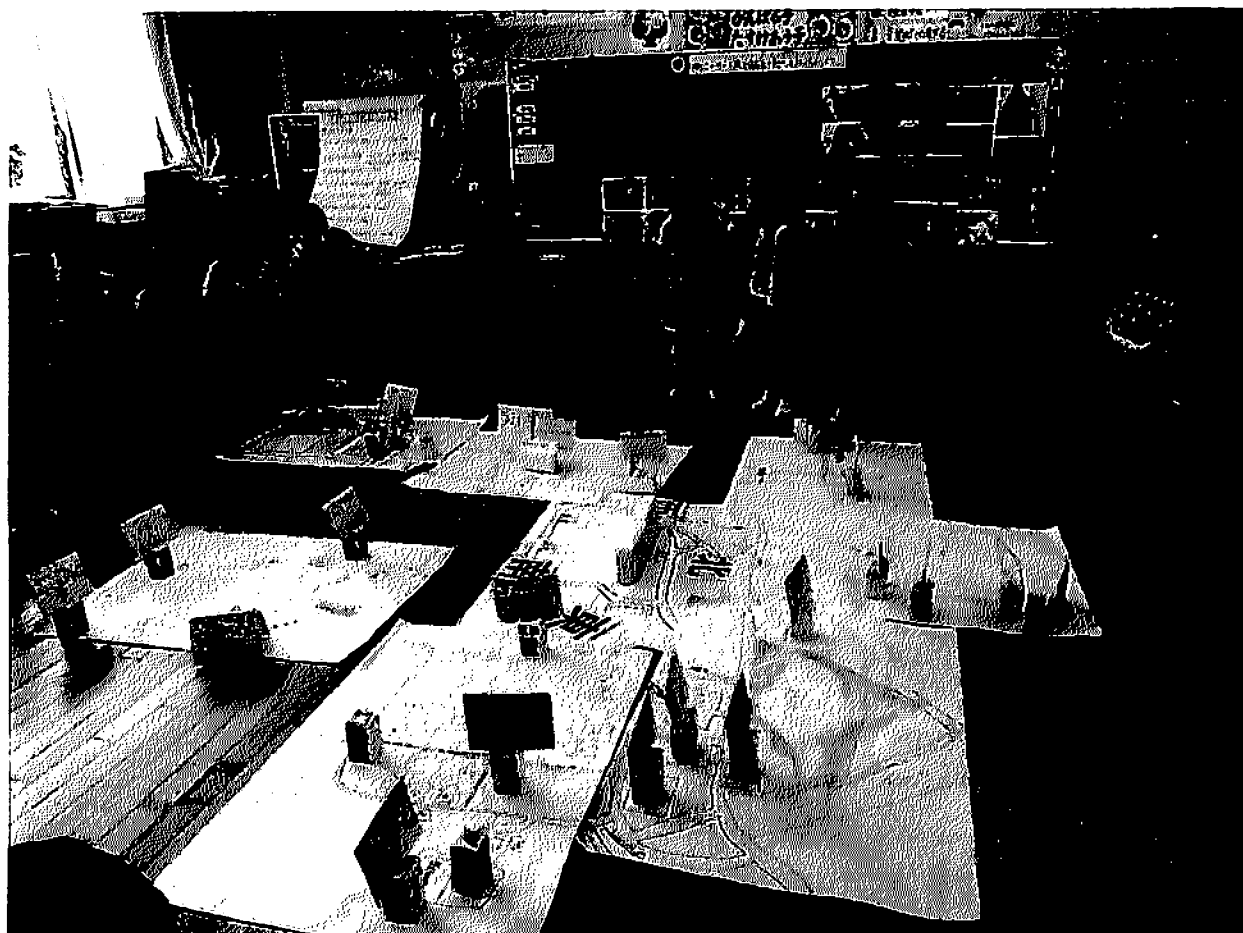
各 地 区
の 地 図

発 表 資
料

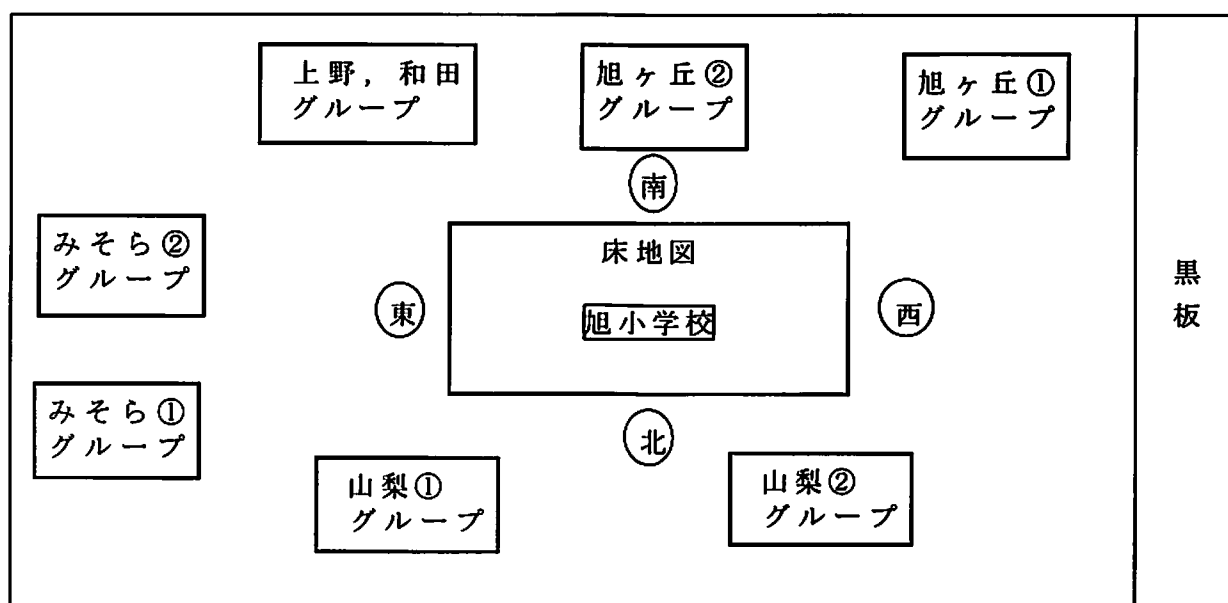
写真

	・みそら②（４名） ・家がたくさんあります。 ・バス通りに近いところ こうみんかんやしょうぼう しょがあります。 ・しょうぼうしょの人にイン タビューしました。 ・山梨①（３名） ・Ｒさんの家の近くに田んぼ や小名木川がありました。 ・松源寺という古いお寺が ありました。 ・山梨②（４名） ・森があります。夏にはかぶ と虫がとれます。 ・坂を下りると田んぼがありま す。Ｋくんの家の近くです。 ・香取神社でお祭りがあります。 ・〇〇さんのおばあちゃんか ら話を聞きました。	・学校を中心に、各地区のおよ その方位を確認するようにす る。 ・全体に聞こえる声の大きさか どうか意識させる。 ○自分の好きな場所や人、心に 残った出来事などを表現し、 友達に知らせようとしている。 （関心・意欲・態度） 【発言・行動観察】 ○表現方法を工夫して、自分の 好きな場所や人、心に残った 出来事などを伝えている。 （思考・表現） 【床地図・発言】 ・次の探検で行ってみたい場所 が見つかった児童や知らなか ったことで、「いいな。」と思 うようなことがあった児童を 発表させ、次の探検につなげ るようにする。
5	3 発表の感想を話し合う。 ・たからものは何かな。 ・もっと知りたいことは。	

グループで作った床地図をつないでいくと



(4) 場の設定

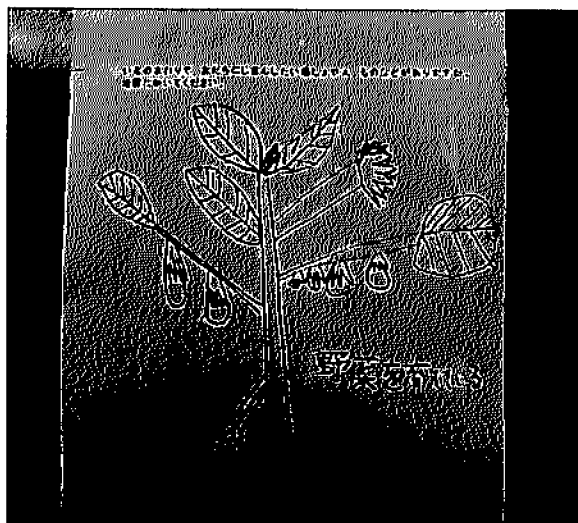


6 児童の変容

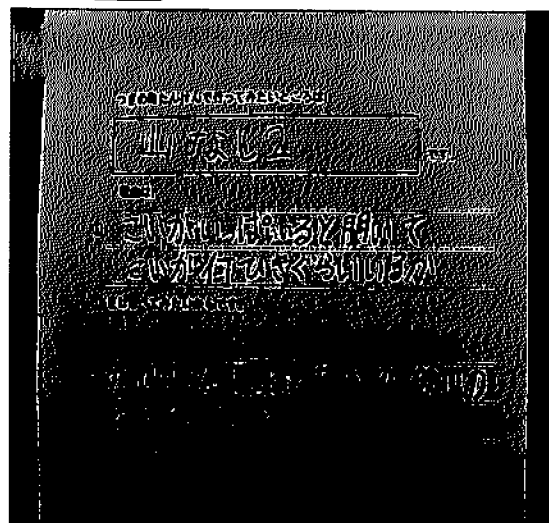
仮説1について

(1) 思いや願いを知る

M児の振り返りカード



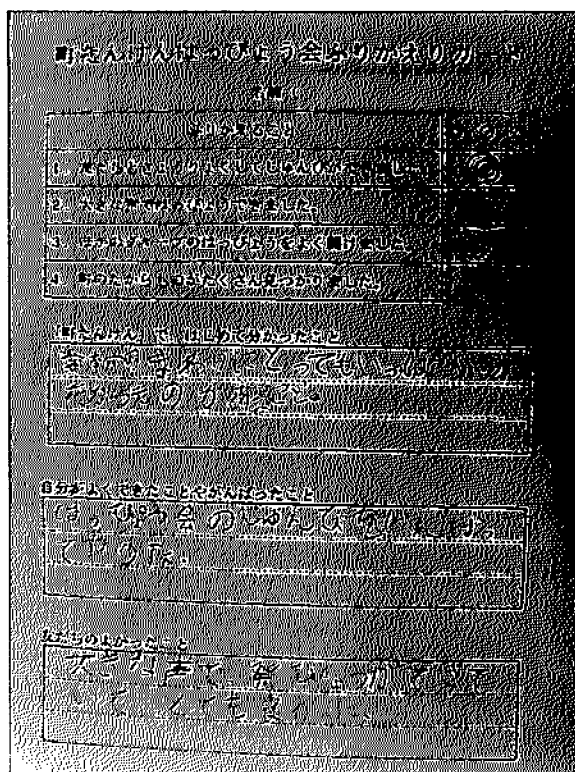
【実態調査】



【1回目の発表後の振り返り】

実態調査では、家の周りで自慢できることを「野菜を育てている」としていた。

1回目の発表会後の振り返りでは、山梨地区の「こい」や「かとりじんじゃ」に興味をもち、探検したいと書いている。友達の発表に興味をもって聞いたことが分かる。

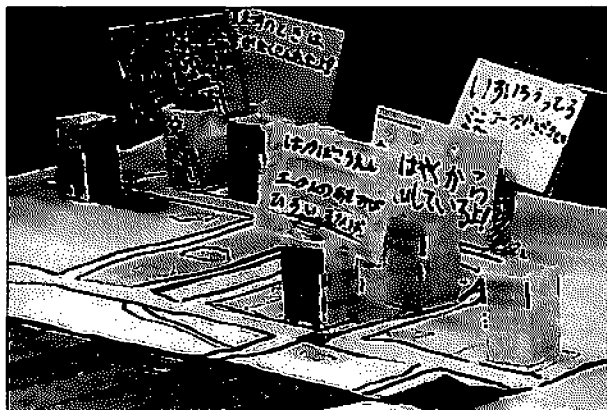


【単元の学習後の振り返りカード】

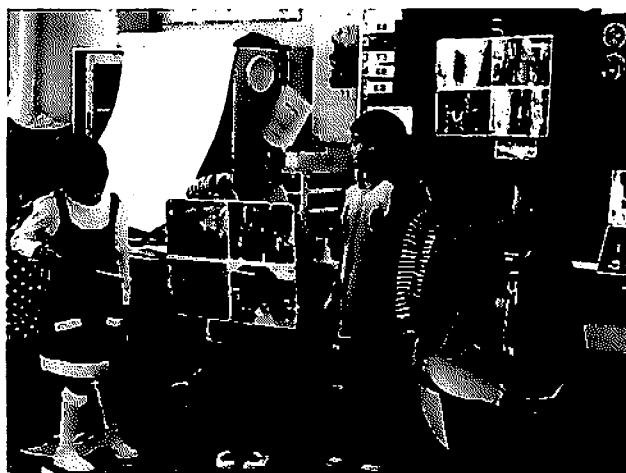
全ての項目に◎をつけ、自分のよさを見付けることができた。意欲的に学習できたことを表していると思われる。単元の学習をとおして、「学校のまわりにとってもいっぱいの中からものがあること」が分かったと書いており、自分の探検したことだけでなく、友達の発表したたからものについてもよさを認めていることが分かる。

(1) 伝え合う場の工夫

床地図(立体)を使った1回目の発表会



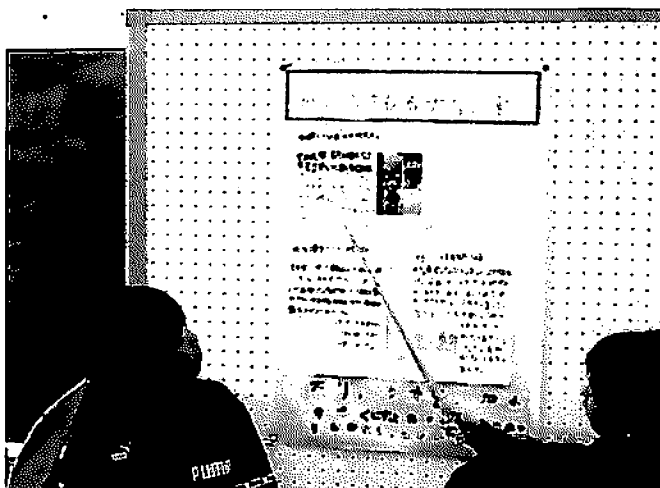
← 立体的な床地図は絵地図より、学校を中心とした地域全体が視覚的に理解しやすい。



【伝え方の工夫】

学校との位置関係を意識できるように、学校を中心とした床地図を作り、その場所のおすすめポイントを書いて、看板にして立てて発表資料とした。友達に分かりやすく伝えるために、学校を起点として「門を出て右に曲がり、～」のように、床地図で探検の道順を示すと共に、自分たちが撮った写真を見せながら発表した。

ポスターを使った2回目の発表会



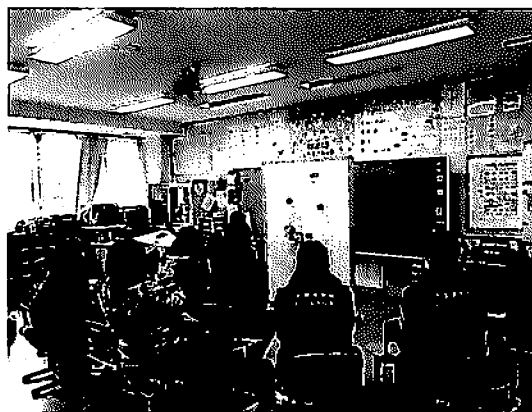
【友達と協力して発表する工夫】

一人一人がポスターで書きたいことをグループで話し合ってから、各自のポスターの作成を行った。同じ内容にならないように気を付けているグループもあった。

グループのポスターに、タイトルを付けたりまとめを書いたりすることで、子ども同士で集めた情報を整理し、比べたり、関連づけたりするなど、気づきを高める工夫をした。

【地域の方々との対話の工夫】

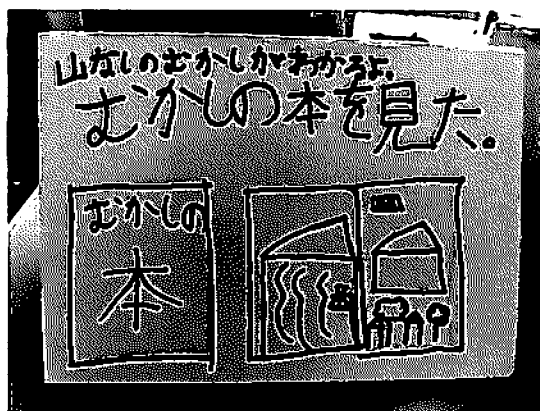
保護者や地域の人を招いて発表会を行った。
発表原稿を用意して、「どうしてだと思いますか。」
「この写真を見てください。」「質問や感想をお願いします。」という聞き手に話しかける発表の仕方をさせた。そのことにより、聞いている人たちから感想をたくさん聞くことができて、子どもたちは満足感をもつことができた。



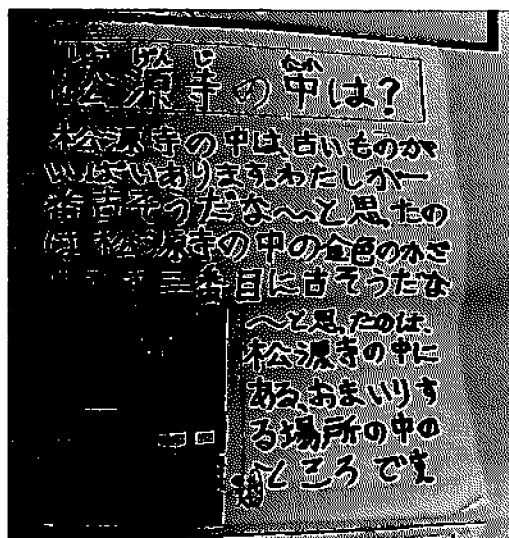
(2)看板とポスター

2回の探検を、同じ場所を選んだN児

実態調査では、家の近くで友達に自慢したい場所として「神社」を挙げた。調べたいこととして、「階段が何段あるか。」と書いていた。

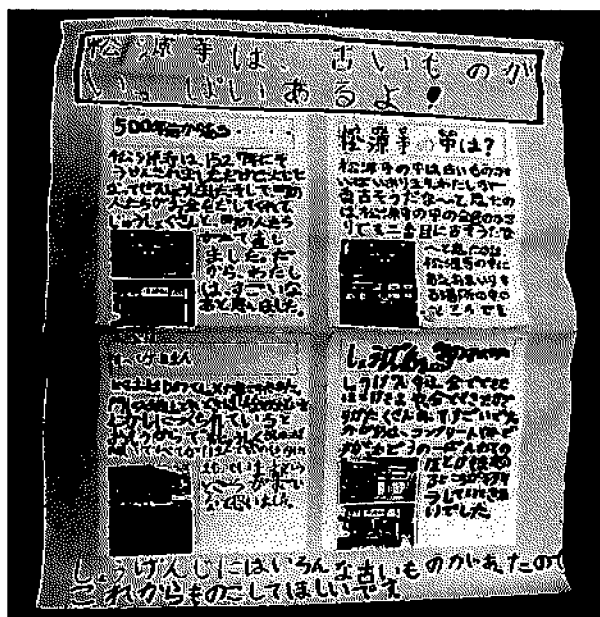


【床地図の看板】



【ポスター】

1回目の探検後のふり返りで、わかったことを「松源寺は500年以上前に建てられた。」と書いている。さらに2回目の探検では、『500年以上前』という1回目の気付きから、古い物を探した。地域にある古くからのお寺に興味・関心を持つだけでなく、お寺のお参りする場所や中の様子にまで関連付けて考えるようになってきた。



【グループでまとめたポスター】

グループでの話し合いを通して、タイトルは「しょうげんじは、古いものがいっぱいあるよ」まとめは「しょうげんじにはいろんな古いものがあつたので、これからものこしてほしい。」とした。

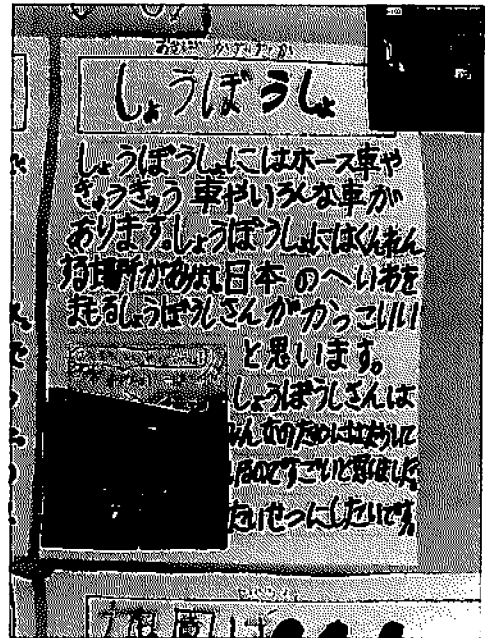
古い物のよさを感じとっていることが分かる。

2回目の探検に、違う場所を選んだK児

実態調査では、家の近くで友達に自慢したい場所として「自分の家のサッカーゴール」を挙げた。調べたいこととして、「旭中学校の中を見学したい。」と書いていた。

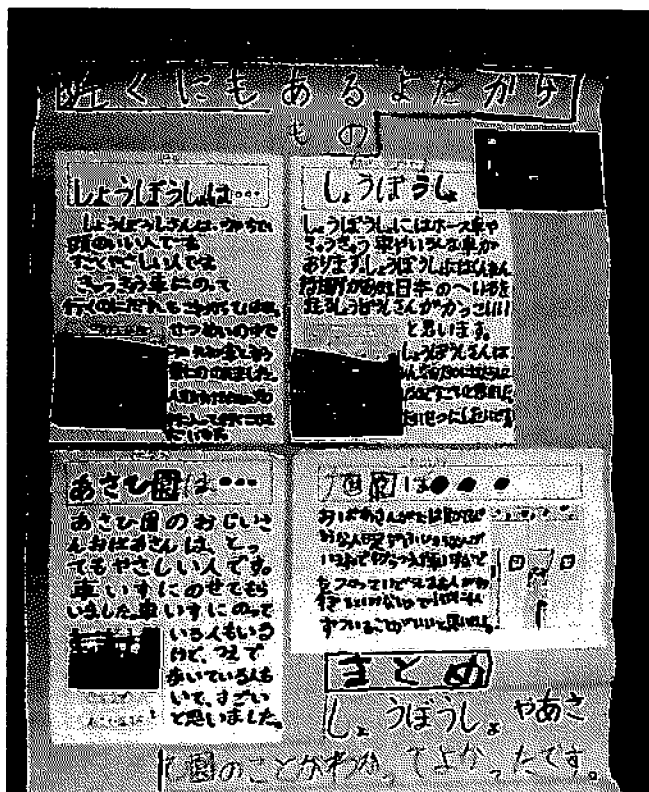


【床地図の看板】



【ポスター】

1回目の探検では、自宅の近くの旭中学校やうぶすな様を見学したが、友達の発表を聞いて消防署に興味をもった。2回目の探検では、「消防士さんの服や消防車の中を調べてみたい。」と興味が広がってきた。探検を通して、「しょうぼうしさんはみんなのためにはたらいっているのですごくと思いました。」と、消防署と自分たちの生活との関わりに気付くことができた。



【グループでまとめたポスター】

グループでの話し合いを通して、タイトルは「ちかくにもあるよたからもの」、まとめは「しょうぼうしやあさひえんのこと」がわかってよかったです。」とした。

学校のすぐ近くにありながら、これまであまり知らなかった施設に目を向け、それぞれの施設の働きが分かったことは、今後の地域での生活に役立つと思われる。

(3) 振り返りカード (学習の最後に分かったことを記入したもの)

- N児 いっぱいはっけんができたけど、一ばんはっけんができたのは松げん寺です。
- O児 みかわやでわかったことは、すこしでもおきやくさんによろこばれるものをしいれてきておみせにならべることです。
- S児 旭中学校は1クラス30人で、校長先生はいまの人を入れて15代目。がっきゅうはつばさがっきゅうとあおぼがっきゅうがありました。いろんなはっけんと町のたからものがわかりました。
- A児 しょうげんじのおしょうさんは、しょうげんじのぜんぶがたいせつですきだと言っていたので、すごく親切な方だと思いました。
- Y児 交ばんの一ばんたいせつなことは、しみんのあんぜんと言っていたからすごいなと思いました。
- N児 かとりじんじゃは、中はちいさいけど古いものがたくさんありました。

<考察>

単元の学習前に自慢したい物として、公園や自分の家・商店などを挙げていたが、単元の学習を通して、地域に残る古い物や地域の人思いなどに気付き、見方を広げていることが見て取れる。

7 成果と課題

仮説1 児童一人一人の思いや願いを大切にし、活動の場を工夫することについて

<成果>

- 実態調査や振り返りをとおして、児童の思いや願いを把握するように努めたことで、意欲をもって取り組むことができた。
- 児童の見方や考え方が広がるように、地域に残る古い物や自然、地域の人と関わるような探検を加えたことで、地域のよさや地域の人の願いに気付くことができた。
- 1回目は「自分の家のある地区」、2回目は「行ってみたい地区」として体験を繰り返したことで、どの児童も自分の思いを実現することができた。

<課題>

- 1回目の発表と振り返りから、2回目の探検の計画を立てて実践したため、1ヵ月ほど間が空いてしまった。児童の意欲の持続が難しかった。
- 児童一人一人の願いや思いを、思考ツール（ウエビングマップ、クラゲチャート等）を使って分類、整理、比較するようにすると、新しい視点やアイディアが生まれるので、積極的に取り入れていきたい。

仮説2 振り返りや伝え合う場の工夫について

<成果>

- 1回目の発表会で、クラスの児童間で体験を交流させたことにより情報が共有でき、2回目の探検への意欲が高まり、一人一人が目的をもつことができた。
- 1回目は「床地図と看板でクラスの友達に伝える」、2回目は「ポスターで友達や家の人、地域の人に伝える」と表現の方法と相手を変えて行ったことで、徐々に深く地域のよさを考えることができた。
- 児童が聞いてほしいと願った保護者や地域の人に向けて発表することは、児童の意欲を高めることにつながった。また、参観者から誉められたことで、自信をもつことができた。

<課題>

- 1回目の発表会で「いいな。すごいな。」と思ったことを伝えるだけでなく、「ここが分からなかった。調べてほしい。」という視点での振り返りや伝え合いをすることで、次の探検がより深まるのではないかな。
- 児童自身が成長に気付けるような振り返りについては、実態調査と同様に『たからもの』を挙げさせるなど、検討していく必要がある。

資料編

第 1 学年 1 組 生活科学習指導案

1 単元名 あきとなかよし

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の内容 (5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること」に気付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。」と (6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にしようとすることができる。」を受けて設定した。

子どもたちの自然体験の少なさが課題として挙げられる中、幼児期から児童期に至る成長過程において、自然に触れ合う体験や季節に応じて自分たちの生活を工夫する体験が求められている。本単元では「秋」という季節において、諸感覚を使って、繰り返し自然と触れ合ったり、自分なりの思いをもち、進んで自然とかかわったりすることで、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気付くことや、身近にある自然を利用したり、遊びに使う物を工夫して作ることを通して、遊びの面白さや自然の不思議さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付くことをねらいとしている。また、見つけた虫を飼うことや継続的な栽培活動を通じて、生き物への親しみをもち、生命の尊さを実感させることも大事な目標である。

(2) 児童の実態 (男子 15 名 女子 17 名 合計 32 名)

質 問	回 答
1 秋から思いつくことを書きましよう。	ハロウィン カボチャ あき かき おちば どんぐり コオロギ
略	
2 虫取りをしたり、虫を飼ったりしたことがありますか。	・ある 12 名 ・ない 20 名
※どんな虫を飼いましたか。 (複数回答)	・かぶとむし 11 名 ・くわがた 9 名
3 秋のもので、なにか作ったり、遊んだりしたことがありますか。	・ある 9 名 ・ない 23 名
※何をつくりましたか。(複数回答)	・どんぐりごま 4 名 ・松ぼっくりツリー 2 名 ・松ぼっくりのけん玉 2 名 ・マラカス 2 名 ・首飾り 2 名 ・ドングリに顔をかいた・おめん・こすりだし
4 秋のもので、作ってみたいものはありますか。	・ツリー 5 名 ・どんぐりごま 5 名

・けん玉	4名
・人形	3名
・わからない	15名

「秋について」イメージマップを書かせたところ、秋で思いつくことで一番多かったのは「とんぼ」や「バッタ」「コオロギ」などの虫をあげたもので、次いで「落ち葉」や「どんぐり」「コスモス」などの自然、「くり」「かき」「かぼちゃ」などの食べ物、「ハロウィン」「お月見」などの生活に関わるものであった。児童は9月に虫取りを行っており、その際に見つけた虫や住みか作りに拾った落ち葉などから秋をイメージしたことがわかる。ただ、「カブトムシ」や「クワガタ」などの夏の虫を答えたものや「はな」のように漠然とした答えもあった。

「虫取りをしたり、虫を飼ったことがあるか」という問に対して「ある」答えた児童は38%で、飼ったことがあるのは「カブトムシ」「クワガタ」だけで、実際に虫取りをしたことがある児童は10名だけであった。

「秋のもので、なにか作ったり、遊んだりしたことがあるか」という問に対しては、「ある」と答えた児童は28%であった。作ったものは「どんぐりごま」や「松ぼっくりのツリー」などで、作った児童にどこで作ったか聞くと、幼稚園での体験であり、日常生活の中でどんぐりを拾ったり、自然物で何かを作ったりする経験はほとんどないようである。また、何を作ってみたいかという問に対しても友だちの作ったものや、教科書をみての意見であり具体的なイメージを持つことができない児童が多くいた。

以上のように本学級の児童は、身近な自然と関わり、身近な自然物を使って遊んだり、何かを作ったりした経験があまりないことがわかった。そのため、季節や自然への関心、生き物に対する関心が薄いと感じる。

(3) 指導観

これらの児童の実態を踏まえて、「身近な自然と親しみ、自分なりの秋の楽しみ」を見つけられるように考え、次のように学習を進めていく。

「いきものとなかよし」では花壇や草むらなどで虫を捕まえて飼ったり、観察したりする。虫が苦手という児童もいるが、自分で捕まえたり、世話をしたりする中で愛着がわき、生き物に親しみをもつとともに、その不思議に気付くことができるであろう。例えば「自分の作りたいすみか」ではなく「虫が安心できるすみか」を作ることで虫の生息環境に目を向けたり、自分本位の考え方から、動物の立場に立ったものの見方、考え方ができるようになったり、気付きの質を高めていくことを期待したい。

「はなややさいをそだてよう③」では、育ててきたアサガオの種取りをしたり、サツマイモを収穫したりして、今までの活動に満足感や達成感を味わわせる。さらに新しい1年生に種をプレゼントしたり、入学式を飾る花を育てたりすることで、秋の栽培活動への意欲を高め、年間を通して植物に親しむようにしたい。

「あきとふれあおう」では秋の自然を体全体で感じられるようにする。春と同じ公園に行き、草原に寝転ぶなどしてその違いに気付かせる。草や木の葉の色、花や木の实にはすぐに気付く子もいるだろう。視覚だけでなく、虫の声や頬に触れる風の爽やかさ、キンモクセイの香りなど聴覚や臭覚、触覚など五感を使って体全体で秋を感じることができるようにならしたい。そうして見つけた秋を春と比べたり、友達と比べたりすることや何かにたとえる活動を通し、言語活動の充実と気づきの質を高めていきたい。さらに、集めてきた落ち葉や木の实、草花を使って遊んだり、制作活動をしたりする。一人一人の思いや願いを生かした多様な遊びを行い、それを相互に教え合ったり、試したりすることを繰り返す交流の場をもち、学び合いを深めていきたい。

「つくろうあきのおくりもの」では、作ったもので遊んだり、園児を招待して一緒に楽しく遊んだりして、招待した人が楽しめる準備やかかわり方を考える。自分が気付いたことや遊びを相手に分かりやすく伝えることは、自分が学んだことを再構築し確かな知識とすると共に、自分ができるようになったことなど自分自身を振り返り、自分の成長に気付くことにもつながっていくだろう。

(4) 仮説とのかかわり

仮説1 思いや願いを大切にする工夫

「自分だけの秋の宝物を作ろう」というめあてを持たせ、目的意識を持った活動ができるようにする。自分だけの宝物をどうイメージするか、一人一人の思いや願いを形にするために事前に、一人一人の児童に作りたいものを絵や文で書かせる。作りたいものが決まらない児童には、個々に相談にのったり、友だちと情報交換をさせたりする。

仮説2 伝え合う場の工夫

4種類の振り返りカードを使い、作ったものを見せ合ったり、友達の活動のよさや工夫を認め合ったりさせる。そこから更に自分の作品を増やしたり、工夫したりする活動を繰り返すことができるようにする。

3 単元の目標

- ・身近な自然や生き物に関心をもち、諸感覚を使ってかかわったり、遊んだりしながら、楽しく生活しようとする。(生活への関心・意欲・態度)
- ・花や実など自然物や身近な材料を使って、工夫して作品を作ったり、遊んだりすることができる。(活動や体験についての思考・表現)
- ・身近な自然の様子が変化したことや、その不思議さ、自然物を使った遊びを作り出す面白さに気付くことができる。(身近な環境や自分についての気付き)
- ・動植物の世話をしたり、秋の自然を使って遊べたりした自分や、一緒に遊んだ友達のよさに気付くことができる。(身近な環境や自分についての気付き)

4 指導計画

単元名	「あきとなかよし」	総時数	35時間
小単元	「いきものとなかよし」		9時間
	・どんなところにいるのかな	・・・	3
	・できたよむしのうち	・・・	2
	・むしのふしぎをみつけた!	・・・	4
小単元	「はなややさいをそだてよう」		7時間
	・たねがとれたよ	・・・	2
	・みんなでたべるとおいしいね	・・・	2
	・こんどはなにをそだてようかな	・・・	3
小単元	「あきとふれあおう」		11時間

時配	主な学習活動	評価規準
2	あきをみつけよう ・あきをテーマにウェビングをする。 ・身近な場所で見つけた秋について発表する。 ・通学路や校庭で見つけた秋を掲示板で紹介し合う。	・身近な秋を進んで見つけようとしている。(関心・意欲・態度) ・夏の頃と自然の様子が違うことに気付いている。 (気付き)
2	あきをかんじよう ・公園に行き、五感を使って体全体で秋を感じながら遊ぶ。 ・自分がやってみたことを、友達と紹介し合う。	・諸感覚を使って、自分なりに秋を感じようとしている。 (関心・意欲・態度) ・見つけた秋を比べたり、たとえたり、言葉で表したりすることができる。(思考・表現)
3	たのしいねあきのあそび ・公園でみつけたこと、面白かったことを発表し、もっとしてみたいことを話し合う。 ・公園に行き、落ち葉や木の実、草花で遊ぶ。 ・遊んだり、作ったりしてみたことを振り返り、カードに書く。	・公園で見つけた秋を比べたり、たとえたり、言葉で表したりすることができる。 (思考・表現) ・いろいろな色や形、大きさの葉や実があることに気付いている。 (気付き)
4 本時 (9/11)	自分だけの秋の宝物を作ろう ・集めてきた葉っぱや木の実を使って、いろいろなものを工夫して作る。 ・自分が作って楽しかったこと、友達のよかったところ、これからしてみたいことなどをカードに書き知らせ合う。 ・友達と見せ合ったり、教え合ったりしたことを参考にして、さらに工夫を加えていく。	・集めた葉っぱや木の実を使って、遊ぶものや飾りを工夫して作ることができる。 (思考・表現) ・約束やルールを工夫すると遊びが楽しくなることに気付いている。 (気付き)

小単元「つくろうあきのおくりもの」

8 時間

- ・幼稚園のみんなをよんで一緒に遊ぼう・・・6
- ・秋の思い出をかざろう・・・2

5 本時の指導（9／11）

（1）目標

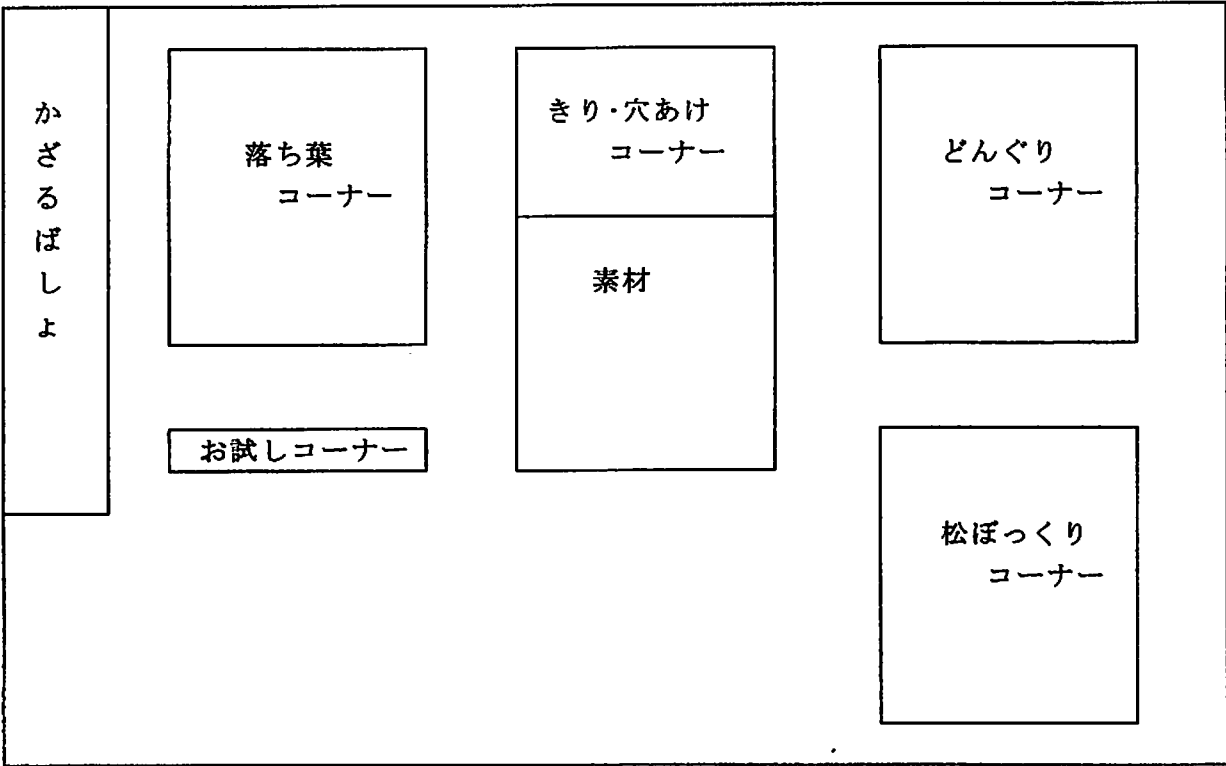
- ・集めてきた落ち葉や木の実、草花を使って、遊ぶものや飾りなど自分の作りたいものを工夫して作ることができる。
(活動や体験についての思考・表現)
- ・自然物を使った活動の楽しさや、自分や友達の活動のよさに気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
2	1 本時の学習内容を知り、めあてをもつ。 ・前時に作ったものをいくつか紹介し、よくできたところを発表する。 ・今日作りたいものを決め、今日のめあてをもつ。	・振り返りカードをもとに、個々の作業の確認をさせる。 ・友達作品のよさを知り、自分の作品に取り入れたり、さらに工夫したりすることを確認する。	振り返りカード
じぶんだけのあきのたからものをつくろう。			
30	2 秋の宝物を作る。 <まつぼっくり> ・けんだま ・ミニツリー <どんぐり> ・こま ・やじろべえ ・ネックレス <落ち葉・草の実> ・お面 ・カード ・押し花	他 他 他	まつぼっくり どんぐり 落ち葉 押し花 草の実 板 竹ひご ひも ビーズ 画用紙 ボンド マーカーペン グルーガン はさみ 錐 穴あけ など
10	3 本時の活動を振り返る。 ・今日作ったものを友達と見せ合う。 ・友だちの作品のよいところを見つけカードに書いて渡す。 ・友だちからもらったカードも参考にしながら、自分の活動を振り返りカードに記入する。 ・次時のめあてをもつ。	思考・表現(活動・作品) ・友だちのよいところを探すとともに、こうしたらもっとよくなるという気付きがあったらアドバイスもできるとよいことを伝える。 ・自分の活動を振り返り、楽しかったこと、うまくできたこと、次回にやってみたいことなどを書き、次時につなげるめあてを持たせる。	いいねカード 振り返りカード

3	4 後片付けをする。	○自然物を使った活動の楽しさや自分や友達の活動のよさに気付いている。 気付き(振り返りカード) ・できあがった作品は自分の「秋の宝箱」の中に入れて、宝物が増えていくことに喜びを感じさせるようにする。	「宝箱」
---	------------	--	------

(3) 場の設定



I 研究主題

主体的に人とのかかわることのできる児童の育成

～異学年交流を通して～

II 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

生活科の教科目標は「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」である。入学したばかりの1年生には、学校生活の何もかもが初めての経験である。そこで、学校内においてもっとも「身近な人々」である2年生と様々な場面においてかかわり、一緒に具体的な活動や体験をすることにより、学校生活への見通しを持ち、意欲を持って活動することができる。さらに、2年生の姿を間近に見て、一年後には自分もこのような姿になれると思い描き、自分自身の可能性に気が付くことができる。また、2年生にとっては、1年生と交流することでかつての自分の姿と今の姿を重ね合わせ、自分の成長に気が付くことができる。このように、身近な人々とのかかわりによって成長する児童の育成を目指すため、本主題を設定した。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は「たくましく 豊かな心を持ち 最後まで学び通す子どもの育成」であり、以下のようにめざす児童像を掲げている。

(1) 心身ともにたくましく、元気に登校する子

(2) 思いやりがあり、感動する心を持つ子

(3) 自ら学び、ねばり強く取り組む子

異学年交流を通して、人とのかかわる良さを感じるとともに、友達とかかわり合うことで自分の成長に気付く児童の育成を図りたいと考える。

(3) 学校や地域の実態から

本校は、千葉ニュータウンの一番東側に宅地造成された地区に開校し、今年18年目の学校である。学校の周辺は、緑豊かな自然環境に恵まれている。また、学校・駅・公園・歩道などのバリアフリー化が図られており、街全体が高齢者などに優しいつくりとなっている。

本校の校舎は地域社会とのつながりを考えた構造となっており、1、2年生の教室は他の学年棟とは独立した低学年棟として1年1組から2年2組までが同じフロアに並んでいる。したがって、1年生にとって2年生は「お隣さん」であり、2年生が学習している様子を常に目にすることができる。また、廊下との境がないオープンスペースの形をとっているため、学年間の交流活動がしやすい形となっている。

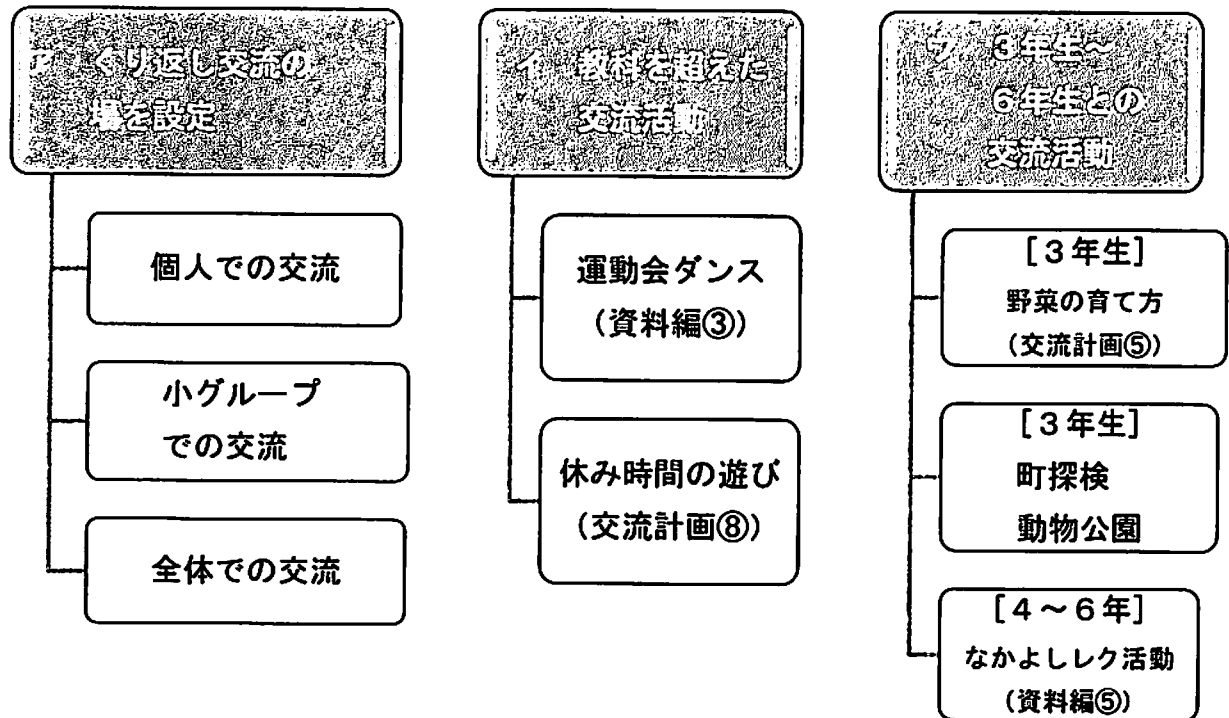
また、本校では昨年度まで校内研究として国語科で「自分の思いや考えを伝え合う児童の育成」を主題として3年間研究をしてきた。国語科の学習過程の中で思いや考えを交流する場を設定するなどして、人とのかかわる、思いを伝えるという活動をしてきた。教科を超えて人とのかかわり、思いや考えを伝え合うことで人とのかかわる良さや友達と共に学び合う良さを感じ、それによって自分自身が成長していけると考える。

Ⅲ 研究仮説と手立て

<仮説 1>

交流の場を意図的に設定し、人とかかわる楽しさを味わわせていけば、進んで人とかかわることができるだろう。

【手立て】

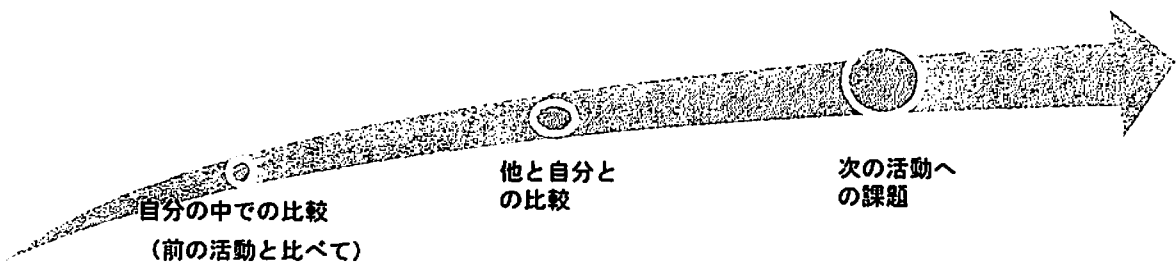


<仮説 2>

振り返りの場を工夫し、見通しを持った活動を重ねれば、自信を持って次の活動に取り組むことができるだろう。

【手立て】

ア 段階的な活動の振り返りを取り入れる。



イ 異学年での振り返りの場を持つ。

学校探検の後、1，2年生一緒に振り返りをする。

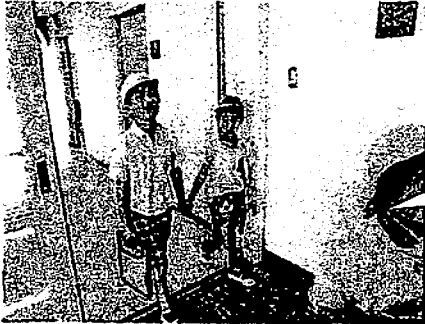
→1年生からの感謝の気持ち，2年生からの頑張りを認める言葉を互いに聞き合う。

ウ 2年間を見通した活動計画の設定をする。

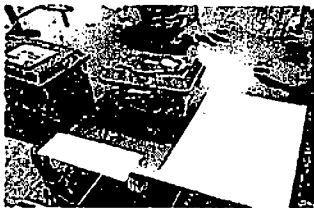
活動の際に、「来年，下の学年に教える」「次はこの活動に取り組む」という見通しを持ちながら活動する。

IV 生活科年間交流計画

月	1 年	2 年
4 月	ともだちたくさんつくろう	2 年生になったよ
★1 年生を迎える会 ・ 2 年生からアサガオの種のプレゼントをもらったよ。 ・ 3 年生が手作りのメダルをプレゼントしてくれたよ。 ・ 3 年生が校歌を教えに来てくれたよ。  お兄さん お姉さん ありがとう また遊んでね。  ○学校にはこんなにたくさんのお兄さん、お姉さんがいるんだね。学校って楽しいね。 ○いには野小学校の校歌を覚えたよ。みんなと歌ってうれしいな。 ○1 年生が入ってきてうれしいな。 ○1 年生には親切にしようね。ぼくたちも去年してもらったね。学校たんけんが楽しみだね！ ○1 年生がアサガオの種を喜んでくれたね。育て方も教えてあげたいね。		

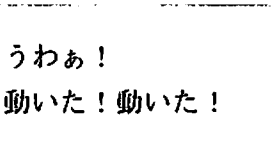
月	1年	2年
5月	わたしがっこうどんなところ	
★学校探検 ・2年生と学校探検に行こう。		②
		手をつないで 出発進行！ ドキドキわくわく どこから行くのかな？
もう一回音楽室に行ってみたいな。		 次はどこに行きたい？
今日行った教室に ○をつけて あげるね。 どこが一番 楽しかった？		 校長室の トロフィが びっくりしたよ。
お姉さん ありがとう。 楽しかったよ！ また遊んでね！		
○学校にはこんなにいろいろな教室 があるんだね！知らなかったよ！ ○知っているお兄さん、お姉さんが いたよ！		○走っちゃいけないよって言ったのに、 どんどん走って行っちゃって、追 かけるのが大変だったんだよ。1年 生ってこんなに言うことを聞いてく

月	1年	2年
5月	○理科室にね、がいこつがいたの！ 2年生が「夜になると動くんだよ。」 って教えてくれたよ。先生、本当？	れないのかな。去年の僕もこうだったのかな？ ○理科室のがいこつに1年ぶりに会えたよ。懐かしいなあ。去年来たことを思い出したよ。 ○1年生をしっかりと案内できたよ。 私っていい2年生だよ。
	ライオンが ねそべっていたよ。 コウモリの 部屋は暗くて 少し怖かったよ。	★千葉市動物公園（校外学習） ③ ・3年生に動物公園のことを聞きに行こう。 ・1年生に動物公園のことを教えてあげよう 
	さいばい：はなややさいをそだてよう ★アサガオの種のまき方・育て方を2年生に教わろう。 ④ ねえねえ、 お姉さん、 アサガオの袋に 種じゃない袋が 2つも入っていたの。 これ、何に使うの？  これは、栄養 だよ！一つは 土に混ぜて もう一つは 本葉が 出てきたら 入れるんだよ。 たねは どうやって まくの？  指で土に穴を 開けてその中 にまくよ。穴の深さは 指の線までだよ。	

月	1年	2年
5月	○2年生ってなんでも知っているね。 ○2つめの栄養を混ぜるときに、また教えてね。 トマトはね、この2つの茎の間に 出てきたわき芽は つんじゃわないと 大きくならないんだよ。 あと、やっぱり栄養も 大切だよ。	○土をぎゅーっとやったらだめだよ。 やさしくふんわりね。雨の日は水を あげないでいいよ。 ○私たちが野菜を育てるときも、栄養 が大切なのかな？ さいばい：はなややさいをそだ てよう ★野菜の育て方を3年生に教わろう。⑤  ○トマトとキュウリで世話の仕方が違 うんだね。 ○やっぱり栄養はどの野菜にも大切な んだね。
7月	生きているってすごい ・いきものひろばを開いて1年生を招待しよう。⑥ ザリガニは こうやって つかむんだよ！  うわあ！ ザリガニだあ！ すごい！すごい！ たくさんいる！ さわってもいいの？  バッタの飼い方を 調べたよ。見てね	

月	1年	2年
7月	モンシロチョウだよ。 1年生に見せたら逃がしてあげるんだ。 え？ どこ？ どこ？ カマキリの たまごだよ。 ○これ、若萩公園で取ったの？どのへんにいたの？どうやって取ったの？ ○生き物が生活している場所と同じようなすみかを作るんだよ。 ○生きているから、大切に世話するんだよ。 ○毎日、世話をしないと死んでしまうよ。	
9月	《ここより平成28年度の実践》 いきものとなかよし ・虫を探すコツ、飼い方のコツを2年生に教わろう。 町にははっけんがいっぱい ・3年生に、町探検のおすすめを聞いてこよう。 他教科：体育 1年生にダンスを教えてあげよう ⑦ 踊りが わからないから 教えて！ いいよ！ 2年生の教室に 集まれ！	

月	1 年	2 年
11 月	あきとふれあおう	
	★アンデルセン公園 ⑧ (昨年度は学校行事の関係で1・2年合同で校外学習を実施) ・アンデルセンのグループで休み時間の交流  ・2年生をリーダーにグループ行動  	
	町の人につたえたい ⑨ ★1年生を呼んで町探検の発表会をしよう。	
	あきとふれあおう ⑩ ★2年生を招待し、一緒に遊ぼう。	
12 月		おもちゃを作ってみよう ・3年生におもちゃ作りのコツを聞いてこよう。
	おもちゃのひみつはっけん! ⑪ ・1年生をおもちゃランドに招待して、一緒に遊ぼう。	

月	1 年	2 年
12 月	うちわで パタパタ あおいで ごらん  この紙コップの中に 上手にビー玉を落としてね。  折り紙で作った こま、よく回るねえ。 作り方教えてね。  このペットボトルの ゴールにボールを うまく入れてね。  ○こんなたのしいおもちゃを作れる なんて、2年生ってすごいなあ。 ○これ、むずかしいなあ。コツを教 えてください。	うわあ！ 動いた！動いた！  ストローをフッと 吹いてね。的を ねらってね！  ○身近な材料を使って、おもしろいお もちゃが作れるんだよ。 ○もっとうまく動かすコツを教えてあ げるね。

V 授業実践 第2学年

- 1 単元名 2年生になったよ
～1年生となかよしになろう～

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領第1学年および第2学年の内容 (8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」を受けて設定した。

この単元では、身近な人々や社会とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活することができるようにすることを目指していききたい。

「学校探検」という同じ活動であっても、立場の違いにより取り組み方が異なってくる。そこから、自分の成長に気付けるようにしていきたい。

(2) 児童の実態(男子23名 女子11名 計34名 交流児童2名含む)

本学級の児童は、全体的に幼く自立していない傾向が見られる。1年生の頃は学校生活の様々な面で6年生にしてもらうことが多く、それを当たり前と感じていた。また、自分の言動に自信がなく、周りを見ながらこわごとと行動に移すことが多かった。

昨年度の多くの交流の中で、「自分たちが2年生になったら。」という見通しをもち、少しずつ意欲が高まってきたように感じる。この単元の実施にあたり、以下のような調査を行った。

① 1年生に教えてあげたいこと

[春]・学校生活(朝の支度、掃除や給食、休み時間)

・学校探検(校内の安全、特別教室のルール)

・アサガオの育て方(水やり) ・萩原公園(虫探し、遊具)

[夏]・プール ・運動会のダンス

[秋]・アンデルセン公園(遊ぶ時の注意、池のこと)・サツマイモの掘り方

[冬]・パンジーの育て方・おもちゃランド

② 1年生の時にしてもらってうれしかったこと

・学校探検で案内してくれたこと(優しく声をかけてくれた。わかりやすく教えてくれた。
行きたいところへ連れて行ってくれた。)

・一緒に遊んだこと

・アンデルセン公園

一緒に～(アスレチック、ボール、動物を抱っこ)できた。

2年生がいろいろやらせてくれた。

・おもちゃランド

③ 1年生に教えてあげる時に大切なこと

・優しく接する ・説明をしてあげる ・自分勝手なことをしない

・危険なことや場所を伝える ・1年生の話をちゃんと聞く

・笑顔で ・あいさつをしっかりとる

結果から、「2年生として教えてあげたい。」という意欲が高く、自分たちがリードして活動することをとても楽しみにしていることがうかがわれる。また、1年生の時の交流活動で「優し

くされて嬉しかった」「きちんと注意してくれて覚えることができた。」のような、印象に残った交流場面を挙げ、今度は自分たちの番だ、という自覚を持っている児童も多い。この意欲を大切に、取り組んでいきたい。

(3) 指導観

○1年生の時の活動を振り返ることで、1年間の見通しを持てるようにする。

その際、生活科の学習だけでなく、他教科の学習や行事、学校生活全般での異学年とのかかわりを思い出せるようにしていきたい。

○自分の成長に気づき、自信をもって活動に取り組む。

1年前の自分の様子を思い出すことで、立場の違いやそれに伴って考えなければならないことを話し合っていきたい。少しでも変化があったら、それを成長と捉え、称賛し、自信を持って取り組めるようにしていきたい。また、個人差に対応した場の設定をしていきたい。

3 仮説とのかかわり

〈仮説1〉交流の場を意図的に設定し、進んで人とのかかわらせる。

手だて ア 自己紹介を始めとし、休み時間に一緒に遊ぶなど、授業時間以外にも交流できる場を作り、かかわりを深める。

手だて ウ 1年生の時の活動を振り返り、2年生にどのようにかかわってもらったか思い出す。必要に応じて、気をつけることなどを3年生に聞きに行く。

〈仮説2〉振り返りの場を工夫し、充実感を持って取り組ませる。

手だて ア 立場の違いにより変化した言動を捉え、1年前との自分の変容に気付かせる。

手だて イ 1年生と一緒に振り返りの場を持ち、自分の成長に気付くことができるようにする。

手だて ウ 1年間の見通しを持ち、どのような場面で1年生と交流できるか、目的意識を持って取り組ませる。

4 単元の目標

・上級生として、1年生に親切に接したり楽しませたりしようとする。

(生活への関心・意欲・態度)

・どのようにしたら1年生がわかりやすいか考え、学校探検の準備をすることができる。

(活動や体験についての思考・表現)

・1年生に親切にするなかで、1年前の自分を思い出し、その成長に気付いていくことができる。

(身近な環境や自分についての気づき)

5 指導計画(6時間扱い)

時配	主な学習活動	評価規準(観点)[方法]
1	2年生のめあてをもとう。 ○進級した喜びを感じ、めあてをもつ。	・2年生に進級したよろこびを感じ、目標を持って意欲的に生活しようとしている。 (関心・意欲・態度) [観察・発言]

		・2年生でできるようにしたいことを考えている。 (思考・表現) [カード・発言]
1	1年生におしえてあげよう。 《○1年生にプレゼントをしよう。》 (全校での1年生を迎える会の中で) ○1年生に教えてあげたいことを話し合う。 ○教えてあげたいことについて、1年間の計画を立てる。	○1年生の頃を思い出し、意欲的に1年生に教えてあげたいことを挙げている。 (関心・意欲・態度) [発言] ○どのような場面で1年生と交流できるか、1年間の見通しを持って考えている。 →仮説2－手だてウ (思考・表現) [発言・カード]
4	学校たんけんをして、1年生に学校をあんないしよう。 ○学校探検の計画を立てる。 ○学校探検を行い、1年生を案内する。 ○学校探検を振り返り、次の活動に生かす。	○上級生として、1年生に親切に接したり楽しませたりしようとしている。 →仮説1－手だてア (関心・意欲・態度) [行動・発言] ○どのようにしたら1年生がわかりやすいかを考え、学校探検の計画を立てている。 →仮説1－手だてウ (思考・表現) [発言・計画表] ○1年生に親切にする中で、1年前の自分を思い出し、その成長に気付いている。 →仮説2－手だてア、イ (気付き) [発言・振り返りカード]

6 活動の実践

○主な学習活動	指導・支援 ○評価	場の設定 資料
学校たんけんをして、1年生に学校をあんないしよう。 1 学校探検の計画を立てる。 どんなことに気をつければいいかな。	・学校探検の約束や時間について確認する。 ・相手意識を持って、わかりやすい案内の仕方を考えさせる。 ・少人数で話し合うことで、自分の思いや考えを伝えやすくする。	(話し合い) 全体→グループ→全体

1年生の時に〇〇を教えて
もらってうれしかったね。

2 学校探検をする。

- ①「よろしくねカード」を渡し、ペア（グループ）の1年生に自己紹介をする。

楽しみだな。
どこから行こうかな。

1年生はちゃんと
ついて来てくれるかな。

- ②学校探検をし、1年生に学校を案内する。
・事前に立てた計画に沿って案内する。
・校内の歩き方や教室への出入りの仕方などを教えてあげながらまわる。

ここは理科室だよ。
「がいこつ先生」がいるよ。

職員室に入るときは
挨拶をするんだよ。

図書ラウンジの階段は、
静かにね。

1年生に合わせて、
ゆっくり歩いてあげよう。

地図を見ながら案内しよう。

- 1年生に親切に接したり楽しませたり
しようと計画を立てているか。

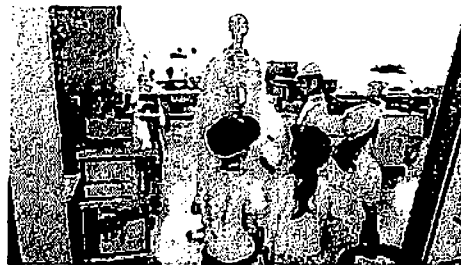
（関・意・態）

- ・1年生のことを思い出しながら、して
もらって嬉しかったことを1年生にし
てあげるようにする。



- 1年生が学校の中を知るために、わか
りやすい計画を立て案内しているか。

（思考・表現）



1年教室
個人対個人
または
グループ

学校内
対3～6年
対教師

- ・自分のお気に入りの場所では、事前に考えておいたクイズを出す。

音楽室にあるこの楽器は何でしょう？



- ③ 1年教室に戻り、学校探検の振り返りをする。
- ・1年生の地図を見ながら、今日行った場所に印をつける。
 - ・楽しかったことを話し合う。

今日行った場所を一緒に確かめてあげよう。

体育館でのクイズ、わかった？

校長室にはトロフィーがあったね。

- ・1年生に嬉しかったことや楽しかったことを聞く中で、自分の成長に気付けるようにする。

1年教室
個人対個人
または
グループ



- ④ 活動の振り返りをする。

クイズが楽しかった。(1年生)

どこへ行きたいか聞いてくれて嬉しかった。(1年生)



- 3 学校探検を振り返り、これからの活動へのめあてをもつ。

1年生の時はついていけただけだったけど、今度はきちんと案内できたよ。

うまく説明できなかった。今度は自分でちゃんと調べてみよう。

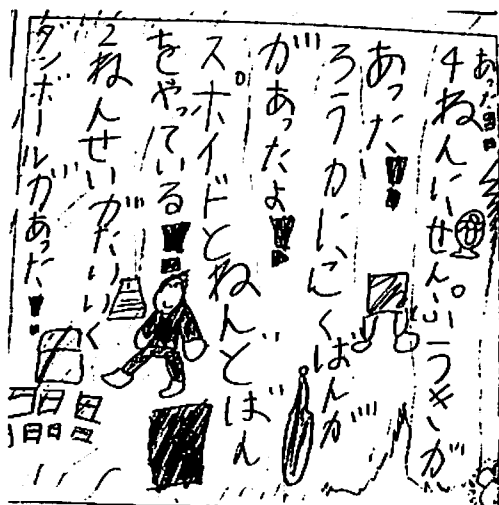
1年生にもっと聞いてあげれば良かった。今度は気をつけよう。

- ・良くできた点について話し合い、自信を持って次の活動に生かせるようにする。

(話し合い)
個人→グループ→全体

- 活動を振り返り、自分の成長に気付いているか。(気付き)

2 年



一年生のいきたいところに行ったりして
ほくのみめたばしょとかワイズをたえたりして
けこういいかんじで学校たんけんがた
のくなくてただけとおわったときほくかうか
れてやすみたいきもちでした。たしね学校たんけ
んたのしかったです。

A児は、1年生の時の学校探検では、2年生を置いて自分の行きたいところに走って行ってしまい、何度も行方不明になり、2年生の手を焼かせた。1年生の時のカードには、自分の行ったところ、見てきたものを羅列している。2年生の学校探検では、1年生の行きたいところに連れて行き、1年生の世話をして疲れてしまった気持ちを書いている。1年生との交流では、1年生の教室を気にする姿が多く見られた。動物公園を紹介する際は、写真入りのポスターを一人で製作し、「それ、なに？」と廊下から聞く1年生に「見ないで！見ないで！これはまだ秘密だよ！あとでのお楽しみだよ！」と答えたり、「今度、いきものひろばに招待するから待っててね！」と積極的に1年生と関わったり、1年生に喜んでもらえることで自分も満足している様子がうかがえた。

当時A児を案内した2年生の感想

せん、ふいこうとか、久々にたけとまりをした。
ハチ、なじとちをかんがえていた。
ともだちがちがくにいるといし、てとすた、ちがき
フカ、いじやな、りしてました。

1年生に動物公園の様子を伝えるA児



B児

1年（学校探検）

2年



1年生が、いけてちかうグループ
①1年生とあそんで、ぼくはつかれました。1年生とくうたら1年生のときは
3つだったけど、2年生になたら
つかれるな、7キもあなからたけど
前の2年生はかんばってたんだけ

B児は、まじめであるが、自分からはあまり人と関わることができない。1年生の時は特に2年生と会話することもなく、学校探検を終えた。2年生の学校探検では、見た感じでは、大変そうなそぶりもしていなかったが、感想では、1年生の時には気付かなかった2年生の大変さに気づき、去年の2年生の苦労を理解している。

1年生との交流「いきものひろば」では、カブトムシを紹介し、1年生に一生懸命調べたことを説明し、「さわってもいい？」という1年生に持ち方を教えてあげることができていた。その場での振り返りで、1年生から「カブトムシをさわらせてくれて嬉しかった。」と言われると、とても嬉しそうに聞いていた。

ぼくのカブトムシを1年生がほめて
くれたことがうれしかった。1年生にわかる
ようにやさしくせつめいしました。つぎは1年生と
あそぶ日がたのしみです。

VII 成果と課題

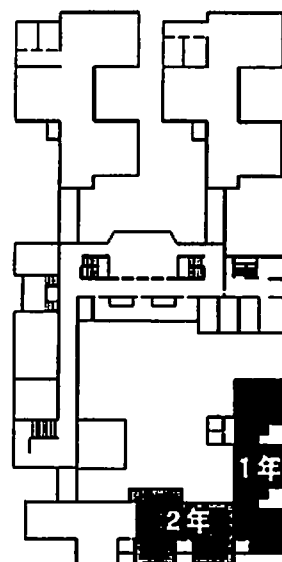
仮説1 交流の場の設定

(成果)

- ・校舎の構造の効果もあり、児童・教師共に「低学年ブロック」という意識が高まった。回数を重ねるうちに、自然に交流できるようになり、気軽にオープンスペースを使っている。休み時間には2年生が進んで1年生に「一緒に遊ぼう。」と声をかけ、児童自らかかわりを持とうとしている。
- ・表現の仕方、他者への伝え方がうまくなった。カードに書き表すだけでなく、ポスターや紙芝居など、様々な表現方法に楽しんで取り組めるようになった。
- ・交流を重ねる中で、2年生は1年生を意識した言動が多くなってきた。1年生の時に自分がやってもらったことを想起することで、どのように声をかければよいか考えながら接することができるようになった。

(課題)

- ・1年→2年の関わりは良くできているが、2年→3年の関わりが途切れてしまう。教科が変わることや、学校の構造上、教室が一番離れていることも影響している。担任同士が意図的に交流を継続させていく働きかけが必要である。
- ・学校探検で組んだペアやグループで、1年を通して活動に取り組めるとよりかかわりが深くなると考える。年間を見通し、継続したグループ作りが必要である。



仮説2 振り返りの場の工夫

(成果)

- ・その場での異学年での合同の振り返り活動が効果的であった。その都度ほめてもらうことで、2年生は上級生意識が高まった。4月の学校探検では1年生に振り回されていたが、6月の生きものひろばでは、堂々と自信を持って1年生に説明することができた。また、1年生は、2年生に直接頑張りを認めてもらったことで、かかわりがより深まっていた。
- ・段階的な振り返りの場を設定したことにより、2年生はほぼ全員が1年生とのかかわりを振り返りカードに書き表すことができるようになった。
- ・1年間を見通した交流計画を掲示したことにより、1年生も2年生も次の活動に意欲を持って取り組むことができた。

(課題)

- ・かかわり合いたい気持ちはあるが、うまく言動で表せない児童、その場で称賛してもらえない児童についてのフォローや自信のつけさせ方を考えていく必要がある。

資料編

実践の様子

① 平成28年度 学校たんけん 2年生が1年生をつれて出発です。



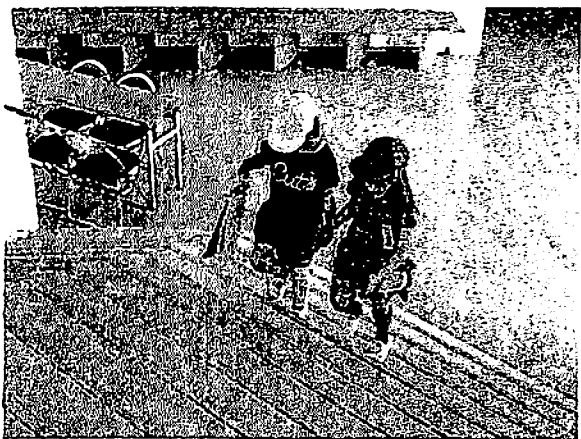
ペアを作ります。



自分の名前を書いたカードを
交換しています。



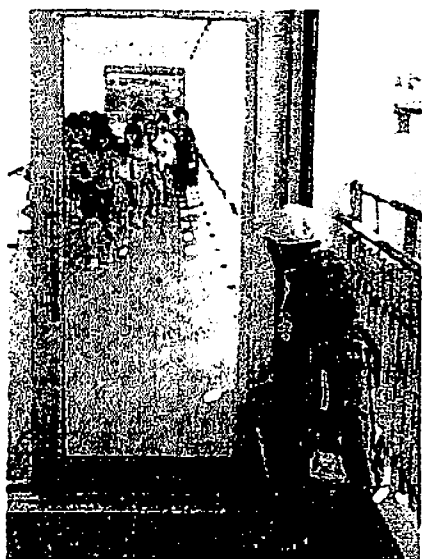
上級生に、何の学習をしている
かたずねています。

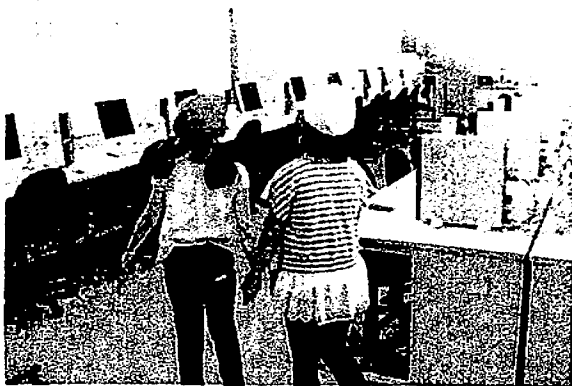


また、あそんでね。

きちんと並んで
すごいね。

1列に並んで特別教室に行く上
級生を見えています。





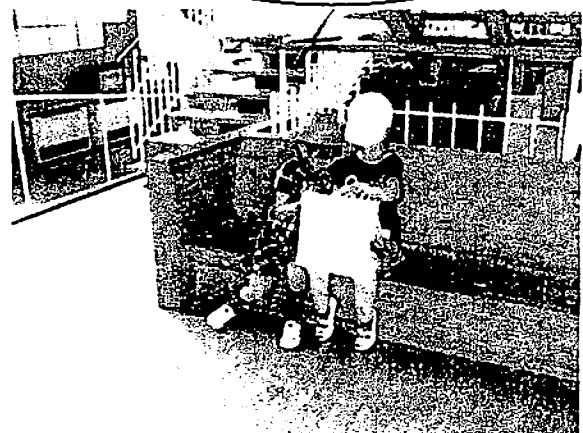
パソコンがいっぱいだ。



パソコン室は、上ばきをぬぐんだね。



ここは、保健室なんだよ。



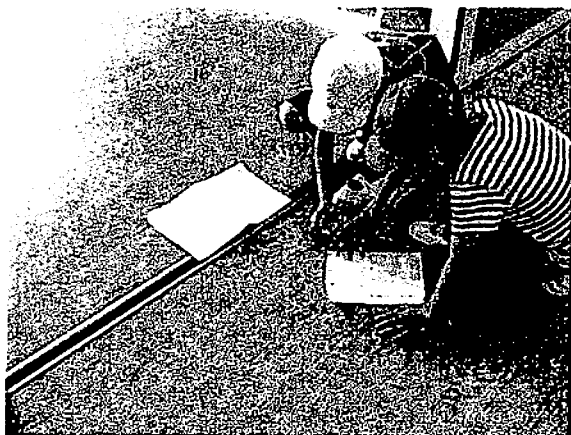
あと、どこがのっているのかな？



ここは、配膳室といって給食が配られるお部屋だよ。



くつは、きちんとそろえようね。



あとどこかな？

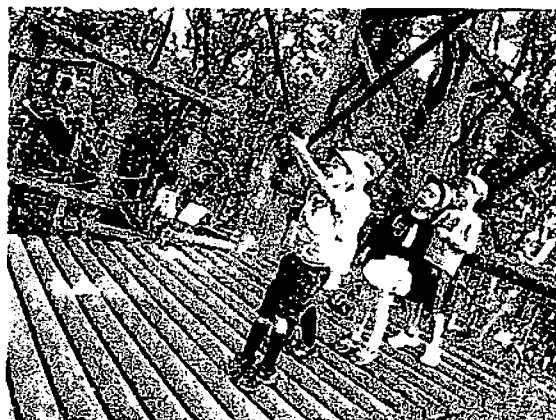


2年生と探検が終わったか
確認してみるね。

② アンデルセン公園 1・2年生でたてわりで遊びました。



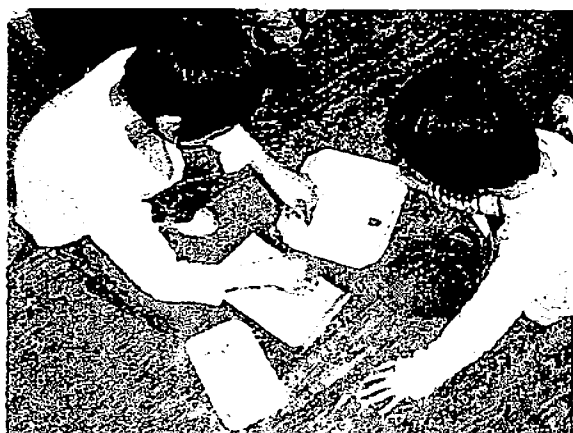
1年生を待ってあげて！



③ 運動会のダンス 2年生が1年生にダンスを教えています。



④ おもちゃランド 2年生が1年生を招待しました。



2年生ありがとう「おもちゃランド」へのお礼のお手紙をわたしています。

⑤ **6年生との交流** 6年生に遊んでももらいました。

